

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
1	漏洩	2	1	11	神奈川県	なし	メタクリル酸メチル(アクリル板の原料)製造装置を冷却する温度調整装置から、熔融塩(硝酸カリウム、硝酸ナトリウム、亜硝酸ナトリウムの混合物)約80リットル漏洩したもの。
2	火災	2	1	11	千葉県	なし	危険物製造所プラント付帯機器のフランジ部分から、機械油(ジベンジルトルエン)が漏洩し着火したもの。同日5:35鎮火確認。
3	漏洩	2	1	13	千葉県	なし	硫黄回収装置の配管から硫化水素ガスが漏洩したもの。火災の発生はなし。装置内をブロックした後、漏洩配管の穴を修復した。
4	漏洩	2	1	17	愛知県	なし	油タンクの東側配管から漏洩。(以下、事業者からの聞き取り)人的被害はない。火災も発生していない。漏洩した油は当製造所敷地内に収まっている。漏洩した油の量は調査中。巡回中に異臭がしたため、確認したところ、埋設配管(8インチ)ドレンバルブから漏えいしているのを確認。漏洩したものはエキストラクト(溶剤によって抽出除去される油分)(第1石油類)元バルブを止めており、現在、漏洩停止を確認作業中。
5	火災	2	1	23	神奈川県	なし	400号地製油所内のフレアスタック(高さ80m)の約70mの位置に、何らかの理由により亀裂が生じ、火災が発生したもの。400号地製油所内の当該フレアスタックへの余剰ガスを、200号地へ切り替える作業を実施中。作業には数時間を要す。
6	漏洩	2	1	25	山口県	なし	パトロール中に4号棧橋付近の第3排水口から海上へ油膜が流出していることを確認。直ちに第3排水口のゲートを閉止し、海上への流出は停止した。オイルフェンス(2重)は設置済であったが、越えての油膜が認められた。その後3重目のオイルフェンスを設置完了し、これ以上の拡散はなくなった。海上保安庁の指示のもと、放水等にて攪拌処理を行い、同日20時53分に海上の油膜処理が完了。
7	火災	2	1	29	茨城県	なし	2階建て事務所(防火対象物)からの出火、延焼している。鎮火 11:43
8	漏洩	2	1	30	千葉県	なし	潤滑油の小分け作業後にバルブを閉め忘れ、潤滑油530Lが漏洩したもの。
9	漏洩	2	1	30	兵庫県	なし	製鉄所東岸壁にて、テールローダーの計器が破損し、地上約30mの高さから作動油約30Lが飛散した。
10	漏洩	2	2	4	神奈川県	なし	蒸気タービン・ボイラー・ガスタービン設備の配管から、ガスが漏れ引火した模様。燃焼現象及びガス漏れは停止。同日18:55ガスタービンの排気ダクトの亀裂から、高温の排気ガス(CO2)が漏れたものを確認した。(非火災) 同日18:55消防は、処理完了確認及び使用制限命令発動。同日19:00公設消防隊現場引上げ。
11	漏洩	2	2	5	山口県	なし	原料のトリエチレングリコールが計量タンク(100L)のベントからオーバーフローし、流入した排水系統の異常警報により発見。漏えい量は、1,030Lと推定。漏えいは既に止まっており、漏えいしたトリエチレングリコールも、排水系統切替により事業所内排水処理施設に止まっており、事業所外への流出は無し。なお、地上部分に漏えいしたトリエチレングリコールの拭き取りも完了している。
12	漏洩	2	2	5	神奈川県	なし	船への積み込み作業中にオーバーフローし、船の甲板及び海上に(ハイオク)ガソリンを流出させたもの。同日10:00頃オイルフェンス展開。同日10:25バキュームによる油回収開始。同日11:00吸着マットによる甲板上の油回収完了。同日11:00バキュームによる海上漏洩油回収完了。漏洩量にあっては現在調査中。海上流出範囲は着岸している船と棧橋の間約0.3m×約10m。漏洩発見後、緊急停止ボタンを作動させ作業停止。
13	漏洩	2	2	6	山口県	なし	パトロール中に第3排水口から海上へ油膜が流出していることを確認。直ちに第3排水口のゲートを閉止し、海上への流出は停止した。オイルフェンス(2重)は設置済であったが、越えての油膜が認められた。その後3重目のオイルフェンスを設置完了し、これ以上の拡散はなくなった。海上保安庁の指示のもと、放水等にて攪拌処理を行い、同日14時40分に海上の油膜処理が完了。海上への流出量は0.1L。
14	火災	2	2	6	千葉県	なし	クレーンの基盤が屋内で燃えた。消火器で消火済み。
15	漏洩	2	2	14	茨城県	なし	純水装置内リリーフ弁から塩酸32%が漏洩したもの。仕切弁を閉止し漏洩は停止。漏洩量等調査中。
16	火災	2	2	14	北海道	軽傷者1名	フィルターの一部交換時、金属部分の歪みを補正するためグラインダーを使用したところ、集塵機内に貯まっていた鉄粉に着火し、それがフィルターに延焼したもの。公設消防の出動有り。
17	漏洩	2	2	15	茨城県	なし	一般取扱所バースにおいて、船舶(350t)からタンクへ積み込み中、船舶側へ逆流し、船舶ベント弁から塩酸液35%が漏洩したもの。漏洩は停止し負傷者なし。漏洩量は約1トン。海上にも漏洩しているが、詳細、原因等調査中。
18	漏洩	2	2	16	兵庫県	なし	月次点検中においてポンプ起動後、エンジン部から潤滑油が漏れいているのを現場の点検担当者が発見し、ポンプを停止。側溝を経由して海域へ約3リットル流出したもの。オイルフェンスを展開し、吸着マットにより回収済み。潤滑油全体の漏えい量は約3リットルであり、その全てが海域へ流出した。
19	漏洩	2	2	18	神奈川県	なし	製造過程に使用するノルマルパラフィンが、1秒間に数的漏洩したもの。漏洩量は約30リットル。海上への流出はなし。同日22:54処置完了(可燃性ガス検知されず。液温50℃を下回り、滴下停止。)
20	漏洩	2	2	18	和歌山県	なし	事業所内の加温施設にて固化した潤滑油添加剤を融解させるため、ドラム缶ごと加温中、潤滑油添加剤が漏れ出した(漏えい量約84L)。ドラム缶を確認したところ、穴があいていた。加温施設下部のピット内のみ潤滑油添加剤が流出したため、これ以上の拡散は無し。火災の発生無し。令和2年2月18日(火)17:15 漏えいした潤滑油添加剤の回収完了。潤滑油添加剤の化学名又は一般名は「油に溶解したアクリルポリマー」で、消防法の適用を受ける。(常温下では蠟のように流動性がないが、加熱により、軟化あるいは液状化する)
21	火災	2	2	19	岡山県	なし	炭酸ガスを分解するための改質炉バーナーから何らかの原因で燃料が漏洩し出火したもの。(漏えい量は確認中)火災は18:26分鎮火。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
22	火災	2	2	21	神奈川県	重傷者1名	薬品を破棄するためプラスチック化していたところ、薬品の混合時に何らかの原因により火災が発生した。火災は鎮火済み(12:37)。負傷者1名(重傷)発生。(三種類の物質の混合作業を行う際、混合させる順序を間違え火災が発生したもの。三種類の物質の種類は、下記のとおり。(1)火薬綿H(キュメンハイドロパーオキサイド(第5類第2種自己反応性物質))、(2)エポキシR(ビニルエステル樹脂(第4類第2石油類非水溶性))、(3)ディオラックRコバルトO(ナフテン酸コバルトミネラルスピリット溶液(第4類第2石油類非水溶性))
23	火災	2	2	23	茨城県	なし	車庫内に停車の大型化学車上部に設置の放水銃(ターレット)のコネクター部分より炎を確認したため、積載の消火器で初期消火。通報時、火災は鎮火。建物への延焼はなし。
24	漏洩	2	2	23	茨城県	なし	一般取扱所パースにおいて、船舶(350t)からタンクへ積み込み中、船舶側へ逆流し、船舶ベント弁から塩酸液35%が漏洩したもの。漏洩は停止し、負傷者なし。漏洩量は約1トン。海上にも漏洩しているが、詳細、原因は調査中。
25	火災	2	2	23	千葉県	なし	屋外に設置されている煙突4階部分における溶接補修工事中に、溶接火花が落下し、地上の枯れ草7.5m2を消失したもの。
26	漏洩	2	2	27	茨城県	軽傷者2名	危険物製造所の配管(80A)バルブから22%の硫酸が漏洩、負傷者2名(軽傷)発生。詳細にあつては調査中
27	火災	2	2	28	山口県	なし	重合棟クリーニングタンクにおいて、トリエチレングリコールから出火。従業員の初期消火により鎮圧。
28	漏洩	2	2	29	神奈川県	なし	燃料燃焼炉からアセトニトリル排水1%が流出したもの。(当初事業所からの通報で海上流出したとの報告であったが、消防隊等の調査で海上への流出は確認できない。)
29	火災	2	3	4	愛知県	なし	作業棟内で、グラインダーにより設備の軸を切断作業中に、1メートル離れた場所においていた部品洗浄用の樹脂容器内の油に引火又は着火したもの。砂及び消化器により初期消火が行われる。14時59分には鎮火済。
30	漏洩	2	3	5	山口県	軽症1名	過酸化水素をローリーで払出し中、ホースが外れ、過酸化水素が飛散して作業員に被液(下半身、背中)した。漏えい量は約30Lで漏えいは停止。漏えいした過酸化水素は水で希釈し、工場排水処理を実施し、18:57に処理完了。
31	漏洩	2	3	6	宮城県	なし	・社員がパトロール中に、地区にある重油直接脱硫装置群のポンプのメカニカルシール部から軽油(危険物・第4類第2石油類)が漏えいしているのを発見したもの。 ・直ちにポンプを停止させ、消防局へ通報した。 ・ポンプの軽油抜きに時間を要し、漏えいは翌7日3時28分頃停止した。 ・漏えいした軽油の量は約6Lであり、敷地外への流出はなかった。
32	爆発	2	3	9	兵庫県	なし	停止中の海水電気分解装置でケレン塗装作業中に可燃性ガスが発生し引火爆発。
33	火災	2	3	10	神奈川県	なし	染料製造工場(染料粉砕室)において、染料(非危険物)を破砕機にて粉砕作業中に、当該機器から白煙があがったもの。
34	火災	2	3	10	千葉県	なし	施設内で補修材が燃えた。鎮火状態。
35	漏洩	2	2	27	大阪府	なし	脱硫装置低圧分離槽フレア行き配管のダミーサポート(配管を材料として利用したサポート)部分より炭化水素及び硫化水素が微量漏えい。
36	火災	2	3	15	神奈川県	なし	誤ってドラフト実験装置の熱源にダストクリーナー(エアゾル)を噴射したところ引火し、ポリ塩化ビニール製パイプ(直径40センチメートル・長さ1メートル)を焼損した。火災は通報時に既に消火していた(消防から、消防車3台・13人出動)。
37	漏洩	2	3	18	岡山県	なし	タンクからローリーへ積み込むための配管フランジ部。タンク(許可容量4,860kL)から硫黄をローリーへ積み込み操作中に、当該タンクに付属する配管フランジから漏えいを確認したもの。(推定漏えい量 約30L)漏えいは停止しており、事業所外への流出はなし。
38	漏洩	2	3	19	和歌山県	なし	・令和2年3月19日(木)22:20頃、巡回中に純水装置の塩酸配管バルブ本体及び接続部パッキンから塩酸の漏えいを見発見(漏えい量約20L)。 ・令和2年3月19日(木)22:30 縁切り完了し、漏えい停止 23:35 塩酸回収作業開始 令和2年3月20日(金)05:00 塩酸回収作業完了 18:15 バルブ取替え完了 ・外部への流出はなし
39	漏洩	2	3	22	岡山県	なし	60%水加ヒドラジン原液槽バルブからヒドラジン(劇物、ボイラー内防食に使用)が約35リットル漏えいしたもの。漏えいは15:15に停止しており、事業所外への流出はなし。
40	火災	2	3	22	福岡県	なし	セメント製造工場(停止中)でプレヒーターの補修のため、組まれた足場を焼損(5F部分のみ)。発生時は休日では作業は無かった。火災は補修作業を行っている工事関係者が現場確認の際に見発見。22日19時16分鎮火。
41	漏洩	2	3	23	福岡県	なし	無水フタル酸精製工場、加熱釜のマンホールが破損し無水フタル酸を加熱した後の残渣物が飛び散った。工場は、使用停止命令により停止。
42	火災	2	3	23	福岡県	なし	SD材(金属ナトリウムを分散させた鉱物油;危険物)の失活処理のため、水を投入中、炎が立ち上がり、付近のウエスに着火。作業員2人が消火器で消火し、鎮火。



No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
43	火災	2	3	24	山口県	なし	廃材置場にて火災発生。廃材が燃えた模様。
44	漏洩	2	3	25	北海道	なし	24日14:45荷受け開始。翌25日0時完了。同日10:40 職員が漏えいを発見。タンク保温被覆下端部からC重油漏えい。現在、ドラム缶へ入れ込み作業中。明日8時にタンカーが到着予定。その後は、タンカーへ移送。タンク満載(2,000kl)。漏えい量は、1時間当たり60%程度。海上への流出無し。自営消防が作業終了まで監視。公設消防の出動有り。12:50 事業者が災害対策本部設置
45	漏洩	2	3	26	大阪府	なし	アテルプラントにてヘキサンが約10L漏えい。海上等への流出はない。
46	漏洩	2	3	26	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所の浮屋根デッキ溶接線からガソリンがにじんでいるもの。自衛消防隊による警戒筒先1線配備。周囲の可燃性ガス検知において、検知なし。タンク内のガソリン7,000klは、他のタンクに移送中「26時間かかる見込み」。「漏洩したガソリンは吸着マットで拭き取った。漏洩は止まっている。」
47	漏洩	2	3	27	山口県	なし	過酸化水素をローリーで払出し中、3m3のタンクに対し、充填量4m3に設定したため、ローリーから900L程度オーバーフローした。漏えいは停止。外部への影響なし。
48	漏洩	2	3	27	千葉県	なし	直接重油脱硫装置の熱交換器から重油が漏洩したもの。バルブ閉止により同日12:26ブロック完了。同日13:25漏洩停止を確認。漏洩量は10リットル程度で、防油堤内留まる。
49	漏洩	2	3	27	広島県	なし	屋外タンク貯蔵所(円筒横置型タンク)の払出ノズル付近(詳細調査中)から、タンクの内容液が漏洩したもの。なお、防油堤排水バルブを開の状態であったため、事業所敷地外(海)へ流出したもの。(防油堤内で留まっている)
50	漏洩	2	3	30	茨城県	なし	屋外タンク貯蔵所の配管からパラキシレン(第4類油に2石油類)が漏えいしたもの。配管の保温材をはがし、応急措置を実施。同日17:40漏洩停止。漏洩量は25リットル程度。配管の漏洩箇所からオイルパンで受けて回収。配管内の滞油はタンクへ回収。
51	漏洩	2	3	30	山口県	なし	屋外タンク貯蔵所の払い出し配管のサポート溶接部が開孔しており、その開孔部から潤滑油が漏えい。直ちに直近のバルブを閉止し、漏えいは停止(漏えい量約100L)、配管パージ済み。防液堤内でとどまり、バキューム車及び吸着マットにて回収した。敷地外への漏えいなし。
52	火災	2	3	31	千葉県	なし	製鋼工場にて鉄を溶かしたものが漏洩し、クレーンが燃えた。